

事業概況—その他事業

2009年度の業績概況

その他事業については、KDDIグループ全体の競争力を強化するため、今後の成長が見込まれる事業分野を重点的に強化しています。

2009年度は主にコールセンター事業およびコンテンツ事業などにおける事業拡大により、営業収益は前年度比54.2%増の1,122億円、営業利益は35億円となりました。

事業内容

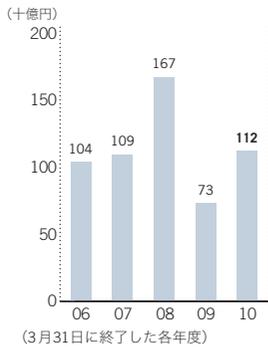
主要なサービス

コールセンター事業、コンテンツ事業、研究・先端開発、その他携帯電話サービスなど

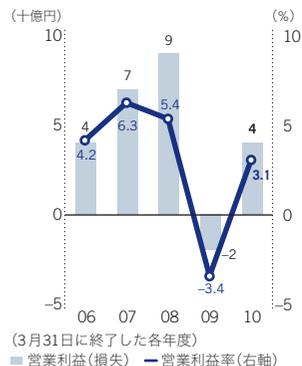
主要なグループ会社

(株)KDDIエボルバ、(株)mediba ほか

営業収益



営業利益(損失)／営業利益率



研究開発

コンピュータやIT機器が不可欠な社会となる中で、KDDIは情報通信技術が社会に自然に溶け込み、お客様が意識せずとも、安心・安全・快適なコミュニケーションが可能な社会の実現に資する研究開発を積み重ねています。

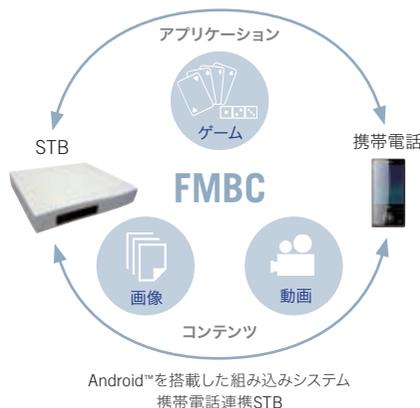
埼玉県ふじみ野市にあるKDDI研究所は当社の研究開発拠点として、固定通信・移動通信から放送までを融合・連携したFMBC (Fixed Mobile and Broadcast Convergence) 環境に対応した研究開発体制を整え、長期的かつ広範な視点に立った要素技術、基礎技術に力を注ぐ一方で、「高度でありながら、より使いやすい身近な技術」の実現を目指した最先端の研究テーマにも取り組み、毎年数多くの研究開発成果をあげています。

また、技術開発拠点として東京都千代田区にある当社本社内にKDDI研究所開発センターを設置し、コア技術の差別化とコスト削減の両立といった課題に挑戦しながら、2、3年後の実用化を前提とした多様な技術開発に取り組んでいます。

この2つの拠点を中心とした研究開発・技術開発活動の結果、2010年3月期には、研究員1人あたり1件以上の特許出願を達成しました。加えて、当社にとって重要な将来技術の動向把握・研究課題抽出などを目的として、国内外の研究機関との共同・委託研究や国際学会会議活動へ参加するほか、標準化活動にも積極的に取り組んでいます。

一方、研究開発体制については、事業部門のみならず運用・建設部門における研究開発ニーズ・技術開発ニーズと、KDDI研究所における研究開発成果・技術開発成果のマッチング、さらには、KDDI研究所での開発プロジェクトの立ち上げ時に、移動/固定の各事業部門との方向性やゴールを共有するためのマッチング活動を行っており、より便利で面白くご満足いただけるサービスをKDDIグループ全体として実現すべく、社内連携を推進しています。

Android™*をベースとしたSTB(Set Top Box)の開発



KDDI研究所は、米Google社の携帯電話プラットフォームAndroid™をベースとしたSTBおよび、STB用アプリケーションを開発しました。

携帯電話プラットフォームと同じプラットフォームをSTBに採用することで、携帯電話とSTB上で同じコンテンツやアプリケーションを利用することが可能となり、これにより開発コストの低減、リードタイムの短縮が可能となりました。

今回試作されたSTBにはIPTVフォーラム技術仕様準拠のビデオオンデマンド受信機能、IPマルチキャスト放送受信機能を搭載しました。加えてTransferJet™を組み込み、携帯電話とSTB間での大容量ファイルの高速転送を実現しています。

また、STB用アプリケーションとして、携帯着信を基にSTB間のコンテンツ転送・共有を行う「携帯電話・STB連動アプリケーション」や、家庭内にあるさまざまな機器のログを収集し、携帯電話やSTBに有用な情報を表示する「家庭内ログ活用アプリケーション」を試作し、開発の容易さを実証するとともに、STBと携帯電話間のシームレスな連携を実現しました。

*「Android」は、Google Inc.の商標です。